

## 豊富町におけるクロウタドリの観察記録

川崎正大<sup>1)</sup>・先崎理之<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 〒 098-0064 北海道天塩郡豊富町豊栄

<sup>2)</sup> 〒 060-8010 北海道札幌市北区北 10 条西 5 丁目 北海道大学大学院地球環境科学研究院

### Observation Record of the Common Blackbird, *Turdus merul*, in Toyotomi Town

Shota KAWASAKI<sup>1)</sup> and Masayuki SENZAKI<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>Hoei, Toyotomi-town, Tesio-gun, Hokkaido, 098-4464 Japan

<sup>2)</sup>Faculty of Environmental Earth Science, Hokkaido University,  
Nishi 5, Kita 10, Kita-ku, Sapporo, Hokkaido, 060-0810 Japan

**Key words:** observational record, *Turdus merul*, Toyotomi town

クロウタドリ *Turdus merul* はユーラシア西部・アフリカ北部・西アジア・中央アジア・インド北部・中国南部に分布するスズメ目ヒタキ科に属する鳥類である (日本鳥学会, 2012, 2008). 日本には, 九州以南から南西諸島に数少ない旅鳥または冬鳥として, 北海道, 本州, 四国には迷鳥として渡来する (真木・大西, 2000; 日本鳥学会, 2012, 2008; 五百沢, 2014). また, 1997 年と 1999 年に, 金沢市普正寺で 1 羽の雌による造巢・抱卵例がある (真木・大西, 2000). しかしながら, 北海道における本種の記録が学術報告された例はない. 筆者は 2019 年 6 月下旬に豊富町の兜沼に於いて, クロウタドリを観察・撮影したので, ここにその詳細を写真と共に報告する.

2019 年 6 月 22 日午前 8 時頃, 北海道天塩郡豊富町兜沼の兜沼公園キャンプ場 (45° 13' 3" N, 141° 42' 0" E) において「ヒョイーン, ヒョイーン, ピークイイ」, 「ピーユ, ピーユ, キュイキュイ」などクロツグミ *T. cardis* の囀りのような, よく通る澄んだ甲高い鳥の声に気づいた. 声を頼りに姿を探すと, キャンプ場の林内で若葉の茂った木々の上層部を移動する大型ツグミ類 1 羽を発見した. 発見当

初は生い茂る枝葉のために全身の確認が難しく, 囀りも今まで聴いたことのない声であったため, 即座に同定することはできなかった. その後, 8 倍の双眼鏡及び 150–500mm のレンズを装着した一眼レフカメラを用いて観察・撮影を行ったところ, この個体は, 以下の特徴を持っていた. 1) 全長はツグミ *T. naumanni* よりもやや大きいように感じられた, 2) 体上面 (頭部, 背, 上尾筒), 体下面 (胸, 脇, 腹), 翼および尾羽は黒褐色だった, 3) 嘴は太長くて黄色く, アイリングが黄色だった, 4) 脚は黒褐色だった (写真 1, 2). 世界のツグミ類のうち, これら 4 点の特徴を満たす種類はクロウタドリのみであるため (Clement & Hathway, 2000), 本個体をクロウタドリと同定した.

クロウタドリの分類には諸説あり, 15 程度の亜種に分けられる (Clement & Hathway, 2000). さらに近年では, 分布域, 形態, 鳴き声, 遺伝的な差異から, これらの亜種は互いに区別可能な 4 つのグループまたは種に分けられることがある (del Hoyo *et al.*, 2019). これら 4 グループのうち, 日本から最も近い地域に分布するのは, 亜種 *mandarius*, *sowerbyi* から成るグループであり,



写真1. 北海道天塩郡豊富町で撮影されたクロウタドリ雄の顔および顔。2019年6月26日撮影。



写真2. 北海道天塩郡豊富町で撮影されたクロウタドリ雄の体下面。2019年6月26日撮影。

従来日本から記録があるのも亜種 *mandarius* である (日本鳥学会, 2012, 2008)。このグループは、体サイズが約 28～29cm と大きいこと (他グループは約 19～28cm)、上面と比較して顔から胸の黒色部がわずかに淡い (他のグループは上下面が一樣に黒褐色または胸以下のみが淡い)、アイリングが黄色い (他の一部のグループは黄色いアイリングを欠く)、嘴がより太くて長いという特徴から、他のグループと区別可能である (Clement & Hathway, 2000; del Hoyo *et al.*, 2019)。本個体は、顔から胸の色の差異は確認できなかったが、体サイズはツグミ (約 23～25cm) より大きく、アイリングは黄色くて嘴は太長かった。これらの特徴は、本個体が亜種 *mandarius* または *sowerbyi* であることを示唆する。これら 2 亜種は形態からの区別が難しいが、亜種 *sowerbyi* の繁殖分布域は四川省から甘粛省であり、日本からはるかに遠い。一方、亜種 *mandarius* は中国中東部で繁殖し、より北方の北京付近にも繁殖地が隔離分布する。そのため、本個体は分布域的には亜種 *mandarius* である可能性が高いと考えられる。

なお、本個体は囀っており、体下面がほぼ一樣な黒褐色であったので雄である (雌の体下面は茶褐色)。また、本観察時期において、本種の雄は羽色から年齢を識別できることがある。すなわち、雄第一回夏羽は、嘴に暗色斑を残す個体があり、頭部や雨覆、風切羽が褐色である (Clement & Hathway, 2000)。一方、成鳥の嘴は全て黄色く、頭部や雨覆、

風切羽もより黒っぽい。本個体については、嘴の特徴は成鳥に合致するが、体羽と翼羽を詳細に観察することが出来なかったため、年齢を判断できなかった (真木・大西, 2000; 五百沢, 2014)。

筆者は本個体を 6 月 28 日の 6 日間に渡り観察したが、29 日以降は確認できなかった。しかし、キャンプ場職員の話によれば普段は聞きなれない同様の声を前週からたびたび聞いていたとのことであった。この声が仮に当該個体であれば、22 日の時点ですでに約 1 週間程度は滞在していたと推察される。当該個体は警戒心が強く 20～30 m ほどまで近づくと、すぐに葉の茂る立ち木に飛び去ってしまい、観察は容易ではなかった。しかし、主に葉の茂った梢の上や木の中ほどの位置で囀り、公園内に植栽されたエゾヤマザクラやウワズミザクラで採餌する様子や、芝生に降りてムクドリ *Spodiopsar cineraceus* などと共に採餌する様子を観察できた。

筆者の知る限り、これまでの北海道での本種の記録は、1996 年 4 月の松前町白神岬 (藤巻, 2012)、2013 年 6 月 2～3 日の枝幸町歌登 (深井, 2013) のみであり、今回の記録は北海道 3 例目である。

最後に、長谷部真氏 (NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク) には、同定に際して鳴き声の確認や様々な情報提供を頂いたほか、本稿の取りまとめの際にも大変お世話になった。この場を借りて心より感謝申し上げる。

**参考文献**

- Clement, P. & R. Hathway, 2000. Thrushes. Helm identification guides. London. Christopher Helm. 463pp.
- del Hoyo, J., A. Elliott, J. Sargatal, D. A. Christie & E. de Juana, 2019. Handbook of the Birds of the World Alive. Lynx Edicions, Barcelona, Spain. 638pp.
- 藤巻裕蔵, 2012. 北海道鳥類目録改訂 4 版. 極東鳥類研究会. 美唄. 78pp.
- 深井直, 2013. クロウタドリ. 日本野鳥の会道北支部・支部通信オロロン, 37(1): 9.
- 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂日本の鳥 550. 山野の鳥. 文一総合出版. 東京. 416pp.
- 真木広造・大西敏一, 2000. 日本の野鳥 590. 平凡社. 東京. 654pp.
- 日本鳥学会, 2012. 日本鳥類目録改訂第 7 版. 日本鳥学会. 三田. 438pp.